2016.7.2 GEWANDHAUS 龍ヶ崎ゲヴァントハウス【オリジナルCDコンサート】

大作曲家の隠れた名曲・佳曲を集めて 第4回

プログラム

このタイトルとしては2008年以来の特集です。ベートーヴェンのホルン・ソナタは当時の名ホルン奏者ジョヴァンニ・プントとの出会いから生まれた作品で、彼の演奏会のために一晩で書き上げたと言われています。ホルン・パートでの名人芸が発揮されるよう作曲されていますが、ピアノ・パートも重要な位置を占めている佳曲です。サン=サーンスの前奏曲とフーガはバッハへの敬愛から生まれた作品と言えますが、技巧的でありながら高い音楽性を持った佳曲です。シューマンのアンダンテと変奏曲は、珍しい編成を取る室内楽ですが、後に作品46として2台のピアノ版に改作されました。シューマン特有の幻想的な美しさに溢れた名曲です。ハチャトゥリアンの作品は1940年に完成。民族的要素を取り入れた野性味溢れる強烈なリズムと躍動感、歌謡調の美しい旋律、ヴァイオリンの機能を最大限に生かした華々しい色彩感など、多くの聴きどころを備えた20世紀のヴァイオリン協奏曲を代表する傑作です。シューベルトの交響曲第4番は、1816年19　の時の作品で、タイトルの「悲劇的」は作曲者自身が付けたものです。明らかにベートーヴェンを意識して作曲されていますが、既にシューベルト独特の力強さ、美しさが輝いている佳曲です。チャイコフスキーのピアノ協奏曲第2番は、あまりにも有名な第1番の影に隠れがちですが、第1、第3楽章での高度な技巧を駆使したダイナミックでスケールの大きな曲想、叙情的な美しさを極めた第2楽章など、魅力に溢れた名曲です。ごゆっくりお楽しみください。（中川）

＊＊＊＊＊＊＊

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770～1827）：
ホルン・ソナタヘ長調op.17 ～ 第1楽章
ヘルマン・バウマン（ホルン）／本荘玲子(ピアノ)
（1976.4.14　東京文化会館大ホールでのLive）

カミーユ・サン=サーンス（1835～1921）：
前奏曲とフーガヘ短調op.52の3（6つの練習曲第3番）
シューラ・チェルカスキー（ピアノ）
（1976.2.9　東京文化会館大ホールでのLive）

ロベルト・シューマン（1810～1856）：
アンダンテと変奏曲（2台のピアノ、2つのチェロとホルンのための）から
マルタ・アルゲリッチ(ピアノ)／アレクサンドル・ラヴィノヴィチ（ピアノ）
ミッシャ・マイスキー(チェロ)／ナターリャ・グートマン（チェロ）
マリー・ルイーズ・ノイネッカー(ホルン)
（1994.9.18　オランダ、ナイメヘンでのLive）

アラム・ハチャトゥリアン（1903～1978）：
ヴァイオリン協奏曲ニ短調～ 抜粋
ダヴィード・オイストラフ（ヴァイオリン）
アラム・ハチャトゥリアン指揮モスクワ放送交響楽団
（1965年スタジオ録音盤）

＊＊＊ 休 憩 ＊＊＊

フランツ・シューベルト（1797～1828）：
交響曲第4番ハ短調D.417 “悲劇的” ～ 第1楽章、第2楽章から、第4楽章
カルロ・マリア・ジュリーニ指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
（1984.2.14　ベルリン、フィルハーモニーホールでのLive）

ピョートル・チャイコフスキー（1840～1893）：
ピアノ協奏曲第2番ト長調op.44 ～ 第1楽章から、第2楽章から、第3楽章
エミール・ギレリス（ピアノ）
エフゲニ・スヴェトラーノフ指揮ソヴィエト国立交響楽団
（1972.12.18　モスクワ音楽院大ホールでのLive）

★ホームページアドレス　http://www.bekkoame.ne.jp/~hippo/gewandhaus/